

令和元年度 記者懇談会（第 10 回）の記録

日 時 令和 2 年 1 月 30 日（木）午後 3 時 30 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 8 人

同席者 飯川副市長、若山副市長、総務部長、健康福祉部長、建設部長、
まちづくり担当次長

次 第 1. 雪対策の進捗状況について 2. スペシャルオリンピックス日本冬
季ナショナルゲーム・北海道の開催について 3. その他（質疑応答）



雪対策の進捗状況について

説明内容

(市長)

今年初めての記者懇談会です。よろしくお願ひします。

記録的な少雪ですが、雪対策の現段階での進捗状況についてご説明します。

まず、今シーズンの雪の状況です。11月は平年を上回る降雪量でした。ところが12月に入ってからには降雪量が平年の約8割程度で推移し、今日の午前8時現在では、累計降雪量が358センチ、積雪深は25センチでした。例年ですと、この時期に約1メートル近い積雪がありますが、今年度は12月8日に43センチとなったのが、これまでの最深積雪深となっています。また、1月24日に発表された札幌管区気象台の3か月予報では、引き続き少雪や暖冬傾向が続くとのことですが、過去には2月に入ってからでも一気に雪山が高くなるような大雪も経験しましたので、今後も緊張感を持って対応したいと考えています。

次に、運搬排雪の実施状況です。例年、小・中学校の始業式までには、バス路線や通学路などの排雪を一通り終えるよう計画していますが、今年度は、少雪により道路幅員が確保されている路線が多かったこともあり、特に雪山の高いバス路線や学校周辺の幹線道路を中心に、1月16日と17日の2日間で排雪作業を1回実施しました。この運搬排雪は、延べ13路線、約13キロメートルの実施でした。また、来週の2月4日から3日間の予定で、利根別川消流雪事業を市内中心部で利根別川に架かる橋から投雪作業を行う予定です。

次に、市民雪堆積場における雪の搬入状況です。今年も昨年度と同じく、市内4箇所の雪堆積場で受け入れています。昨年の同時期と比べて約2割程度、約9万5千立方メートルの搬入量となっています。

次に、苦情・要望等の状況です。1月24日までに182件の苦情・要望が寄せられました。こちらも昨年の同時期と比べて約2割の件数になります。

次に、空き家の対応状況です。市が現在把握している管理不全な空き家は251戸、このうち落雪などの恐れのある155戸について、1月23日と24日の2日間でパトロールを実施しました。少雪ということもあり、現段階では、落雪などの危険による指導や市による緊急安全措置を行わなければならない空き家は無く、今回のパトロールで解体や居住実態を確認した4戸を除いた、残り151戸を経過観察しています。

次に、高齢者・障がい者世帯の冬の暮らし支援事業です。この支援を受けるためには事前に登録が必要で、例年、降雪が少ない年は登録世帯数も少なくなる傾向にありましたが、昨年から間口除雪助成、今年から定期排雪助成を開始したことに伴い、現時点で514世帯、昨年と比べて104世帯の増、昨年の同じ時期に比べて100世帯ほど増加しています。また、今年から、間口除雪と定期排雪を契約した際に、市に事前に報告していただいております、実際に助成の対象

となる契約数は、間口除雪が 252 件、昨年に比べて 88 件の増、定期排雪が 26 件の新規となっています。

次に、豪雪パトロールです。この冬も、大雪の際にはいち早く迅速に対応できるように昨年から準備を整え、独り暮らしの高齢者世帯などを巡回調査する豪雪パトロールを行う体制を敷いていますが、今のところ出動はありません。

次に、人的被害の状況と雪下ろし安全装備の貸し出し状況です。人的被害は、1月24日現在の状況としまして、昨年の12月からこれまでに4件の雪が原因による事故が発生しています。これは、昨年同時期と比べて11件の減少になります。投雪機に手が巻き込まれた事故が2件、屋根の雪下ろしの際の事故が2件です。なお、雪下ろし安全装備の貸し出し状況は、資料の通りです。市では、屋根の雪下ろし作業中の事故防止に向け、広報いわみざわ1月号で雪下ろし作業の注意点をお知らせするとともに、雪下ろし安全装備を貸し出す際には、作業上の注意点を記載した「雪下ろし安全ガイド」を渡し、安全な作業を呼び掛けているところです。

質疑応答

(プレス空知)

運搬排雪作業が2日間で13路線・約13キロメートルとのことでしたが、このときの雪の量はどのくらいですか。

(市長)

詳しい数値が手元にありませんので、記者懇談会の終了後に建設部からお知らせします。(→10t ダンプトラック約1,200台分)

(プレス空知)

これから少雪のまま推移していくと、除雪作業の委託料の設計変更や減額は余儀なくされると思いますが、その救済措置などを何かお考えですか。

(市長)

岩見沢市では、委託料の算定で7メートルの降雪量を基準とし、その1割以下の増減であれば、満額の支払いとなります。今年のように降雪量が基準の1割を超えて下回ったのであれば、降雪量に応じて減額しますが、どれほど下回っても最低保証が6割となっており、カバーできるのではないかと思います。今後、どの程度の雪が降るかわかりませんので、現時点で減額の試算を行っているというわけではありません。

スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム・北海道の開催について

説明内容

(市長)

来月 21 日から 23 日に、岩見沢市、札幌市、江別市の 3 市でスペシャルオリンピック日本冬季ナショナルゲームが北海道で初開催されます。

スペシャルオリンピックは、知的障がいのある方々にさまざまなスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会の機会を提供するものです。

今回、岩見沢市では、北海道教育大学岩見沢校の第三体育館を会場にフロアホッケーが実施されます。現在、338 名の選手が参加する予定です。

なお、本大会は 2021 年にスウェーデンで開催される予定の世界大会の国内選考も兼ねたものです。岩見沢市でのフロアホッケーの実施に当たりましては、ボランティアセンター、市内の高校、教育大学などの関係団体から 120 人以上のボランティアにご参加いただく予定です。

また、開催地となる 3 市では、ふるさと納税により寄附を募り、本大会への助成を行うこととしています。本市にも、本日までに目標額の 300 万円を大きく上回る、約 570 万円の寄附の申し出があり、多くの方々の支援により、本大会が開催されることとなります。

昨年度、岩見沢市では、北海道障がい者スポーツ大会を、大会の歴史上初めて夏季・冬季の同年度開催したところであり、芸術の分野におきましてもアール・ブリュットの取組みを積極的に進めています。

本大会の開催が、こうしたスポーツや芸術文化の取組みを通じた共生社会の実現に大きな役割を果たすものと期待しているところです。

質疑応答

(北海道新聞)

ふるさと納税の目標額 300 万円は、岩見沢市だけの目標額ですか。

(市長)

その通りです。

(北海道新聞)

この寄付はいつから受け付けているのですか。

(健康福祉部長)

昨年 4 月 1 日からです。

(北海道新聞)

今日までに受け付けた寄付の総額はおいくらですか。

(飯川副市長)

567 万 7,000 円です。

(北海道新聞)

寄付の受け付けはいつまでですか。

(市長)

大会開催の 1 週間前、2 月 14 日まで受け付けを行う予定です。

(北海道新聞)

このままだと目標額の 2 倍くらいになりそうな雰囲気ですね。

(市長)

ご支援いただいた方に感謝申し上げます。

(北海道新聞)

どのような方々が寄付してくれたのですか。

(健康福祉部長)

道内の企業や個人のほか、市内、本州の方もいます。

(北海道新聞)

寄付金の使い道は。

(市長)

大会実行委員会に支出することになります。その後の詳しい使い道まではわかりません。

(プレス空知)

市長も応援に行きますか。

(市長)

札幌市で開催される開会式や閉会式に出席し、岩見沢では表彰式のプレゼンターを務めます。できる限り参加しようと調整しているところです。

(北海道新聞)

フロアホッケーの応援を盛り上げるために考えていることはありますか。

(市長)

まずは、大会の周知に取り組んでいます。この大会はライオンズクラブが全面的に協賛して取り組んでいまして、入場は無料ですし、できるだけ市民の皆さまにも観戦していただきたいと思います。

その他

質疑応答

新年度予算案の規模や見通しについて

(北海道建設新聞)

新年度予算案の規模や見通しを言える範囲で教えてください。

(市長)

最終確定ではありませんが、一般会計は 500 億円くらいです。普通建設事業費は 68 億円くらい。全会計では 930 億円くらいです。現在、最後の詰めの作業をしているところです。

(北海道建設新聞)

新年度で特に目玉となる事業はありますか。

(市長)

それは今後発表します。

(プレス空知)

予算編成方針の段階では一般会計が 500 億円台に乗らないかもという話をされていましたが、今の話から 500 億円台に乗るのかなという印象を受けましたが。

(市長)

それは来月しっかりとご説明します。

(総務部長)

新年度予算案の記者発表は来月 20 日の開催を予定していますのでよろしくお願ひします。

(毎日新聞)

前年度の当初予算はいくらでしたか。

(市長)

今年度の一般会計は 502 億円です。新年度は今年度を下回りますが 500 億円よりはということでお察してください。

新型コロナウイルスへの対応について

(読売新聞)

新型コロナウイルスへの市の対応を教えてください。

(市長)

1 月 28 日に道で感染症危機管理対策本部会議が開かれ、29 日には空知総合振興局で道の機関、教育局、警察署などが集まった会議が開かれまして、明日 31 日には同じく空知総合振興局で市町村や医療機関、あるいは消防署や医師会などが集まる会議が開催されます。

岩見沢市の対応として、注意喚起を実施しています。ホームページや Facebook、Twitter、地デジ広報で既の実施しており、本日、市メールサービスを約 3,000 人の登録者に対して送信しました。その他、家族健康手帳アプリや FM はまなす、情報配信モニターを使った周知や市庁舎や各施設でのポスター掲示もしています。市立総合病院ではポスターを掲示するほか、患者が発生した場合に備えての対応を行っているところです。学校などや福祉施設にもポスターを送付し、掲示していただいています。また、1 月 27 日、医師会の理事会で市立病院の対応などが説明され、本日、医師会から医療機関に通知を出すということです。町内会では会館にポスターを掲示しています。さらに、民生委員の会合が 2 月上旬に予定されていますので、そこでも注意喚起を行い、保健推進員にもポスターの送付を予定しています。その他、経済部によると、宿泊客のキャンセルはないとのことでした。現時点では 3 月に中国人 2 人の予約が入っている状況です。昨年までの例であれば、さっぽろ雪まつりの開催時期には、札幌ではなく岩見沢に宿泊する観光客がいましたが、現在は予約がないということです。

最後に、報道の皆さんも新型コロナウイルスに十分気を付けて取材してください。

また、報道からの注意喚起もよろしくお願いいたします。咳エチケットやマスクの着用、うがい・手洗いなど一般的な感染症対策をするのが一番だと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)